

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531023

研究課題名(和文) 教師のための自己アセスメント型キャリア支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a self-assessment-style career support program for teachers.

研究代表者

菅野 純 (JUN, KANNO)

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：80195180

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、教師のメンタルヘルスおよび問題対応スキルの向上を目的とした自己アセスメント型キャリア支援プログラムの開発を行うものである。

首都圏近郊の現役教師を対象にしたプログラム実施と効果測の結果、メンタルヘルスおよび問題対応スキル向上を意図した個別型サポートとピアキャリアアップ型ワークによって、心のエネルギーが有意に向上していることが窺われた。また、自記式調査用紙と個別型インタビューにより、自己アセスメントによる自身に対する気づきの発生および自己課題の明確化や、主観的な問題対応スキルが向上していることが推測された。以上のことから、プログラムが意図した成果は一定程度認められることが確認された。

研究成果の概要(英文)：This research concerns the development of a self-assessment-style career support program aimed at improving the mental health and problem-coping skills of teachers.

The results of the program and questionnaire which were conducted targeting teachers active in the Tokyo area suggest that mental energy is improving significantly through individual support and peer career-up-style work aimed at improving mental health and problem-coping skills. Furthermore, it can be conjectured that through self-completed questionnaires and separate interviews, subjective problem-coping skills are improving, and teachers are gaining clarification on their individual issues, and making self-realizations through self-assessment. The above confirms that the program is to a certain degree achieving its intended aims.

研究分野：学校カウンセリング学，教育学

キーワード：教師のメンタルヘルス、キャリア支援プログラム、教師の自己理解、自立型キャリアアップ、教師のストレス、予防的・開発的方法、教師の指導力、教師の問題解決スキル

1. 研究開始当初の背景

近年、病気休職者の急増等、教師のメンタルヘルス上の問題が社会問題となっている。さらに免許更新制度の是非をめぐる議論を背景に、教師の成長の伸び悩み等への対応が問題となっている。

教師が精神的健康を保ちつつ、自分の発達課題に向き合い、教育者としての役割をこなすために、学校コンサルテーションや構成的グループエンカウンター、ストレスマネジメント等、さまざまな試みがなされ、一定の効果をあげている(国分、2003 他)。しかしそうしたメンタルヘルス向上やキャリア支援への取り組みの手前で躓いている教師も少なくないという指摘がある(由布、2009)。その原因として、①自己啓発的課題に取り組むための精神的エネルギーが欠乏している場合や、②課題への対応スキルが身につけていない可能性が指摘されている(菅野、2009)。したがって、自己啓発的課題が教師一人ひとりに根付くためには、教師の精神状態および問題対応スキルのアセスメントを十分に行った上、それに合わせた課題設定や支援が必要なのである。

こうした問題を克服するために、まず教師自らが自身の精神状態や問題対応スキルを把握し、キャリア発達課題上の問題点を自らの力で理解するツールの開発を行い、同時にそのようにして得た自己理解に基づくエンパワーや社会的スキルアップのための新たなプログラムの開発を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究は教師のメンタルヘルスおよび問題対応スキルの向上を目的とした自己アセスメント型キャリア支援プログラムの開発を行うものである。本プログラムは教師自らの教育活動を支える心理的状态を把握し、自分が既に獲得している能力、まだ不十分な能力等について自己理解する。そうした自己理解によって教師の抱える心理的問題が整理

されると同時に次なる課題が明確になる。その後、教師が個別実施型サポートおよびピアキャリアアップ型ワークを通して自立的キャリアアップを支援することを目的とする。

3. 研究の方法

まず、文献研究により現代の教師たちの置かれているストレス状況や従来行なわれてきた予防的・啓発的対応方法とその成果について改めて整理を行った。

また本研究で着目している自己理解および教育指導力を向上させるという視点から教師支援のあり方に言及したレビュー論文は国内外を概観してもほとんどみられないため、まずは教師研究の中で上記要因がどのように扱われているかの精査を行った。その上で、その近接要因を導入した尺度およびキャリア支援プログラムの開発・施行上での問題点について丁寧に考察することを試みた。

加えて、レビューした論文の妥当性については現役教師を対象とした質問紙調査およびインタビューを通して確認を進めた。

次に、文献研究の結果をもとに、心理的状态を査定する評価尺度および教師同士のピアキャリアアップ型ワークプログラムの立案・作成とその効果の検討を行った。

評価指標としては、子ども版「精神的充足・社会適応力」評価尺度の項目をベースにした独自の尺度を利用した。項目としては、適宜大人版に内容を変更しつつも、測定概念は同一となるよう調整したものである。

教師同士のピアキャリアアップ型ワークプログラムは、実際の学校現場での指導経験を持つ首都圏近郊の現役教師7名に対して行われた。対象教師は全て小学校の所属であり、2学年から6学年の学級担任をそれぞれ担当している。

期間は6ヶ月間であり、「特別活動としてのグループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニング」をテーマに、それぞれが独自に工夫した授業を展開した。1ヶ月に一

度、参加者は一堂に会し、それぞれの苦労やうまく進められたところなどを話し合い、自己理解や児童理解にもつなげた。また、プログラム全般のスケジューリングや、各回のファシリテートは、学校臨床心理学を専門とする大学教員によって行われた。なお、プログラムには、この大学教員による個別型サポートも含まれている。

プログラム終了後には、上記評価尺度の変化とともに、自記式調査用紙（自由記述）と個別型インタビュー調査によりナラティブデータを収集し、それぞれ効果指標として査定した。

4. 研究成果

首都圏近郊の現役教師を対象にしたプログラム実施と調査の結果、メンタルヘルスおよび問題対応スキル向上を意図した個別型サポートおよびピアキャリアアップ型ワークによって、「精神的充足・社会適応力」評価尺度で査定される心のエネルギーが有意に向上していることが窺われた ($p < .01$)。また、指導の幅が広がったり、心理・身体的な不適応の問題を抱えた児童への対処法を副次的に案出出来たことで心に余裕が生まれ、管理職・同僚との関係性や、家族に関する要因、さらには自己評価にかかわる要因においても好転していることが見受けられた。

また、自記式調査用紙と個別型インタビューにより、自己アセスメントによる自身に対する気づきの発生および自己課題の明確化や、主観的な問題対応スキルが向上していることが推測された。

以上のことから、プログラムが意図した成果は一定程度認められることが確認された。今後は、対象者数や属性などのバリエーションをさらに考慮し、プログラムの汎用可能性についての検討が求められると考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 15 件)

- (1) 菅野 純、子どものサインを見逃すな、*ducare*、22、2015、54-57
- (2) 菅野 純、学校にストレスを感じる子ども、*児童心理*、68、2014、1-10
- (3) 菅野 純、いじめ加害者への支援的関わり、更生保護、65、2014、14-17
- (4) 菅野 純、支援を受ける力を育てるために、学校教育相談、28、2014、8-10
- (5) 菅野 純、「面倒くささ」の中にこそ、会報少林寺拳法、34、2014、20
- (6) 菅野 純、教師が子どもと向き合うために、*児童心理*、67、2013、1-11
- (7) 菅野 純、生徒たちの幼さ—大人心をどう育てるか、＜心の基礎＞リサーチ、1、2013、1-4
- (8) Keita YAMADA, Yasushi FUJII, Ariane SCHRATTER & Jun KANNO, Bullying (Ijime) in Japanese Schools: Teacher-Student Relationship for Prevention, *早稲田大学臨床心理学研究*、13(1)、2013、53-64
- (9) 藤井 靖、元気のよい登校-保護者ができる「虎の巻」七か条(保護者の協力が大切な一・二年生の心身の成長)、*児童心理*、66、84-87
- (10) 黒氏健一郎、藤井 靖、菅野 純、キャンプ活動における特別支援学級に在籍する生徒の支援-成功体験に焦点を当てて-、*早稲田大学臨床心理学研究*、12、3-15
- (11) 高林大輝、藤井 靖、菅野 純、自閉症スペクトラム傾向の高さが精神健康度と被援助志向性および大学生生活に及ぼす影響、*早稲田大学臨床心理学研究*、12、45-54
- (12) 黒氏健一郎、原健太郎、猪熊大史、大沢知隼、小川雅代、坂野 葵、千葉裕明、藤井 靖、菅野 純、人づきあいが得意ではない子どもを対象としたキャンプの実践報告-対人相互作用場面におけるスタッフの役割に着目して-、*早稲田大学臨床心理学研究*、12、109-120
- (13) 菅野 恵、藤井 靖、公立小・中・高等学校における支援の行き詰まりが生じた複数事例の検討-スクール

カウンセラーの役割に着目して、学校メンタルヘルス、16、152-160

(14) 山田達人、藤井 靖、桂川泰典、菅野 純、私立中高一貫校における精神的充足および社会的適応力の短期縦断的研究、早稲田大学臨床心理学研究、14、37-45

(15) 角田 絢、藤井 靖、菅野 純、中学生の「心の回復力尺度」作成の試み、早稲田大学臨床心理学研究、14、159-167

[学会発表] (計 10 件)

(1) 綿井雅康、菅野 純、増田みちよ、藤井 靖、山田達人、加藤陽子、桂川泰典、生徒指導における「精神的充足・社会的適応力」評価尺度 (KJQ) の発展的活用、日本教育心理学会第56回総会、2014、神戸国際会議場

(2) 嶋田洋徳、小関俊祐、楠見 潔、中條信裕、葦崎浩史、小関真美、菅野 純、認知行動療法に関する生徒指導・教育相談研修会のあり方、2014、神戸国際会議場

(3) 高林大輝、菅野 純、大学生の経験する発達障害に類似した困難への有効な支援法の検討、日本教育心理学会第56回総会、2014、神戸国際会議場

(4) 藤井 靖、小児の non-patient IBS とその対応 (教育講演2)、第32回日本小児心身医学会学術集会、2014、大阪国際交流センター

(5) 山口孔丹子、菅野 純、精神的困難状態からの回復過程と友達の役割、日本教育心理学会第56回総会、2014、神戸国際会議場

(6) 菅野 純、不登校問題の課題と解決を考える、日本学校教育相談学会第25回中央研修会、2015、国立オリンピック記念青少年総合センター

(7) 菅野 純、桂川泰典、加藤陽子、増田みちよ、中村 有、原口和博、「精神的充足・社会的適応力」評価尺度を学級経営に活用する、日本教育心理学会第55回、2013、法政大学

(8) 菅野 純、嶋田洋徳、小関俊祐、小関真美、田平 綾、大沢知隼、石垣久美子、ソーシャルスキルトレーニングの有効性が期待できる条件-教

育の場でどのような時に SST は有効なのか、日本教育心理学会第55回、2013、法政大学

(9) 猪熊大史、加藤陽子、綿井雅康、桂川泰典、菅野 純、「精神的充足・社会的適応力」評価尺度の学級経営への活用 (3) 一経年変化をもとにした生徒理解の試み、日本教育心理学会第54回、2012、琉球大学

(10) 綿井雅康、猪熊大史、加藤陽子、桂川泰典、中村 有、菅野 純、「精神的充足・社会的適応力」評価尺度の学級経営への活用 (4) 一尺度得点の二次元布置図に関する類型化の試み、日本教育心理学会第54回、2012、琉球大学

[図書] (計 3 件)

(1) 菅野 純、藤井 靖、桂川泰典編著、発達障害 理解と対応 Q&A、明治図書出版、2015、190

(2) 菅野 純、藤井 靖、桂川泰典他、KJQ マトリックスガイドブック よりよい学級・クラス経営のための実践サポート集、実務教育出版、2012、128

(3) 菅野 純、桂川泰典、藤井 靖他、いじめ 予防と対応 Q&A73、明治図書出版、2012、168

[産業財産権]

該当なし

[その他] (計 2 件)

(1) 藤井 靖、桂川泰典、KJQ マトリックスをフル活用! 児童生徒理解に心理検査を生かす、実務教育出版、20

(2) 藤井 靖、平成26年度所沢市教育センター研究紀要 (第1部 研究報告)、所沢市教育委員会、89

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅野 純 (KANNO, Jun)

早稲田大学・人間科学学術院・教授
研究者番号: 80195180

(2) 研究分担者

藤井 靖 (FUJII, Yasushi)

早稲田大学・人間科学学術院・助教
研究者番号: 50508439

桂川 泰典 (KATSURAGAWA, Taisuke)
岡山大学・学内共同利用施設等・准教授
研究者番号：20613863